

# BRITISH BRASS

## 洗足学園音楽大学ブリティッシュブラス 第53回定期演奏会



2021年11月7日(日) 14:30開演 [14:00開場]  
洗足学園 前田ホール

～ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い ～

- ・マスクの着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

# GREETING

本日は、洗足学園音楽大学ブリティッシュブラス第53回定期演奏会にご来場くださりまして、誠にありがとうございます。

ブラスバンドの原型ともいえる金管合奏という形態は17世紀から18世紀にかけて教会音楽の中で流行し、その後、ヨーロッパの軍楽隊の影響を受けながら次第に様々な形で発展してきました。その中の一つの形であるブラスバンドは、1884年にパリで始まりました。当初は同属楽器サクソルンの発明者であるアドルフ・サククス(Antoine Joseph Adolphe Sax, 1814-1894)の自作の楽器を中心とした合奏団で「サクソルンバンド」と名付けられていましたが、発展の過程として、音色にコントラストを付ける為に直管楽器のトロンボーンが加えられ、現在のブラスバンドのような形となりました。

イギリスでは当初、ブラスバンドは救世軍などが街角などで募金を募るために演奏していた小規模な金管アンサンブルのバンドに過ぎませんでした。しかし19世紀半ばを過ぎ、炭鉱企業の福利厚生の一環として金管楽器が取り入れられるようになり、炭鉱労働者の息抜きや安らぎの為に結成された金管バンドが各地に普及し、イギリスの多くの会社などで採用されるようになってきました。そして、1853年にブラスバンドのコンクールが行われるようになり、産業革命の活況と相まって、企業のみならず各地でたくさんのブラスバンドが誕生し、現在では、町に一つはブラスバンドが必ずある、と言えるくらい地域に密着した存在となっています。(このエピソードは映画「ブラス!」(Brassed Off!)でも取り上げられています。)

洗足学園音楽大学では、早くからこのブラスバンドに着目し、1979年よりアンサンブル授業という形態で研究を重ねてきました。現在では、120名を超える学生がこの授業を履修し学んでいることを担当責任者として大変嬉しく思っています。

ブラスバンドは「家族」のように温かく、また「動くオルガン」と称されるほど重厚かつきらびやかなサウンドを奏でることができます。世界的な感染状況がまだまだ落ち着かない中ですが、今日のひととき、学生たちの素晴らしいパフォーマンスをお楽しみいただければ幸いです。また、ブリティッシュサウンドを継承する42期生となる4年生たちはこの演奏会が学生生活最後の演奏となります。是非とも盛大な拍手で迎えていただければ企画運営責任者としてこの上ない喜びです。皆様の本日のご来場を心より感謝申し上げます。

ブリティッシュブラス 企画運営責任者  
福田 昌範

# PROGRAMME & MEMBERS

## 【第1部 基本編成】指揮 福田 昌範

M.コードナー／コール・オブ・ザ・ゴスペル  
Martin Cordner // Call of the Gospel

P.スパーク／宇宙の音楽  
Philip Sparke (b.1951) // Music of the Spheres

### MEMBERS

Principal Cornet	中山 亜実			
Solo Cornet	高木 美雨	宮澤 恵美	清宮 衛介	錦古里 愛
Soprano Cornet	細谷 侑生			
2nd Cornet	佐々木 右京	谷中 彩乃		
3rd Cornet	長田 彩希	手塚 柚季		
Flugelhorn	森 猛流	江原 春香		
Solo Tenor Horn	檜山 沙南			
1st Tenor Horn	神山 巧弥			
2nd Tenor Horn	芦川 大樹			
1st Baritone	石倉 雄太			
2nd Baritone	阿部 紗佳			
1st Trombone	米村 麻優			
2nd Trombone	高木 咲希			
Bass Trombone	神野 葵			
Principal Euphonium	谷田 果奈美			
Euphonium	市村 結衣			
E ♭ Bass	土谷 紗央里	下田 真寛		
B ♭ Bass	齊藤 徹也	高島 佳樹		
Percussion	小栗栖 未久	馬島 啓	村山 みなみ	田代 万莉子
	眞塩 怜央奈	横木 秀真		

## 【第2部 中編成 A】 指揮 山本 武雄

### P.グレイアム／サモン・ザ・ドラゴン

Peter Graham (b.1958) // Summon the Dragon

### G.リチャーズ／カントリー・シーン

Goff Richards (1944-2011) // Country Scene

### P.スパーク／ホーコン善王の伝説

Philip Sparke // The Saga of Haakon the Good

## MEMBERS

Principal Cornet	水谷 樹里			
Solo Cornet	鈴木 ころろ	桃井 智穂	石井 華音	秋山 凜音
	LIN GUANGLUE			
Soprano Cornet	友野 楓			
Repiano Cornet	山下 莉奈	菊地 伶海		
2nd Cornet	吉田 千恵	宇津木 清来	浦島 柚子	
3rd Cornet	植田 優花	谷口 諒		
Flugelhorn	石垣 静流	吉井 絵理果		
Solo Tenor Horn	鈴木 みのり	芦名 まりい		
1st Tenor Horn	永池 夏生	深美 朱莉		
2nd Tenor Horn	渡辺 寛子	大島 香那		
1st Baritone	加藤 千聖			
2nd Baritone	佐々野 広雅			
1st Trombone	岩井 心	三浦 健	CHI YAN-JEN	
2nd Trombone	横山 美里	伴 芽衣菜	中田 夏葵	永吉 彩花
Bass Trombone	佐藤 頼星	宇賀那 晴臣	林 剛潤	
Principal Euphonium	武田 美智			
1st Euphonium	増野 玲音			
2nd Euphonium	荒木 優奈			
E ♭ Bass	鈴木 湧太	寺崎 栞	金子 優也	
B ♭ Bass	鈴木 快門	吉海 風龍	櫻井 希有	
Percussion	金正 紗也加	栃下 紗奈	八木 優弥	熊谷 彩夏
	椎名 萌	宗像 桃子		

# 【第3部 中編成 B】 指揮 山本 武雄

J.カーナウ／ファンファーレ・アンド・フローリッシュ  
James Curnow (b.1943) // Fanfare and Flourishes

P.スパーク／カンティレーナ(陽はまた昇る)  
Philip Sparke // Cantilena for Brass Band

P.グレイアム／シャイン・アズ・ザ・ライト  
Peter Graham // Shine as the Light

## MEMBERS

Principal Cornet	溝口 大輔			
Solo Cornet	五月女 啓太	磯野 沙弥香	藤原 くるみ	稲田 菜摘
Soprano Cornet	大津 泰			
Repiano Cornet	竹内 大輝	茂呂 佑		
2nd Cornet	丸岡 三希子	加藤 早弥乃	小松 美羽	
3rd Cornet	草野 あんず	濱田 ほむら	藤田 雄大	
Flugelhorn	伊吹 梓	冨永 倫		
Solo Tenor Horn	垣本 真夢	池谷 彰恩		
1st Tenor Horn	堀江 風雅			
2nd Tenor Horn	鹿野 円香	武田 倅奈		
1st Baritone	清水 榛菜			
2nd Baritone	山崎 綾華			
1st Trombone	窪寺 菜摘	長坪 海斗	小野 航	裏木 りりあ
2nd Trombone	出田 希乃	安藤 花	中津 愛梨	平野 結梨香
Bass Trombone	佐藤 頼星	宇賀那 晴臣	林 剛潤	
Principal Euphonium	上柳 創大			
2nd Euphonium	大島 成実			
E ♭ Bass	渡部 陽菜	豊田 真悠子	遠藤 愛奈	
B ♭ Bass	岡田 侑也	長谷川 夏帆	南迫 奏太	
Percussion	金正 紗也加	柄下 紗奈	八木 優弥	熊谷 彩夏
	椎名 萌	宗像 桃子		

# PROGRAMME NOTES

## M.コードナー／コール・オブ・ザ・ゴスペル

マーティン・コードナーはイギリスのケンブリッジ在住で救世軍の将務を務める。救世軍とは1865年にロンドン東部の貧しい労働者階級に伝導するためにイギリスのメソジスト教会の牧師、ウィリアム・ブースと妻キャサリンにより設立され、現在は131の国と地域で宗教活動、社会福祉事業、教育事業、医療事業を推進している。軍隊を模した組織ご特徴で、クリスマスを中心とした年末に行われる募金が有名である。

この曲は2015年に救世軍のバンドであるロンドン・セントラル・フェローシップ・バンドの為に書かれた。曲中では賛美歌「We have a gospel」を用いられているが、賛美歌の持つ上品さを保ちつつもポップで現代的なスタイルで構成されている。

ホルネット 1年 谷中 彩乃

## P.スパーク／宇宙の音楽

フィリップ・スパーク(b.1951)はイギリスのロンドンに生まれ、10代の頃よりピアノやヴァイオリンのレッスンを受ける。王立音楽大学にてピアノ、トランペット、作曲を学び、在学中に高等教育機関より発行される業績証明書や卒業証明書、特定の課程を修了したことを証明するディプロマを取得するなど、非常に才能にあふれた作曲家である。在学中から出版作品を作り、そして現在もなお数多くの曲を出版している。

この曲はヨークシャー・ビルディング・ソサエティ・バンド(現:ハモンズ・バンド)から委託され、2004年5月にスコットランドのグラスゴーで開催されたヨーロピアン・ブラスバンド選手権大会で初めて演奏された。「宇宙の音楽(天球の音楽)」というタイトルは、哲学者であり数学者でもあるピタゴラスによって唱えられた音階の周波数の比率が統治されているという法則によって宇宙は支配されているという理論からきている。曲の始まりは時間や重力、元素など全てのものがなくゼロであったことを示す「t=0」のテナーホーンのソロから始まり、宇宙がたったひとつの点から出現したというビッグバンを描写する「ビッグバン」、生命を支えることができる惑星として誕生した地球、この素晴らしくも信じがたい一連の状況における瞑想録となっている「孤独な惑星」、宇宙空間を飛び交い、恵深くも危険な物体を描く「小惑星帯と流れ星」、果て無き宇宙全体が音を奏でているという「宇宙の音楽(天球の音楽)」と「ハルモニア」、そして私たちの宇宙に対する探究の継続、宇宙の未来はどのような変化を遂げていくのか疑問を残す「未知なるもの」で壮大な終結を迎える。

テナーホーン 3年 檜山 沙南

## PROGRAMME NOTES

### P.グレイアム／サモン・ザ・ドラゴン

ピーター・グレイアム(b.1958)はスコットランドに生まれる。幼少の頃から救世軍の活動に参加しコルネットを学ぶ。エディンバラ大学では作曲を専攻し、今迄に数多くのブラスバンド作品を手掛けた。その中のひとつであるこの曲は、別名「飛竜の召喚」である。委嘱したジェームズ・ワトソンのリクエストから、ジョン・ウィリアムズ作品の様な華麗なファンファーレとプレリュードからできている。「ドラゴン(Dragon)」という単語に『飛ぶ』という意味は一切含まれていないが、この曲を聴けば止まっているドラゴンではなく、飛んでいるドラゴン、つまり『飛竜』と日本語で訳されている理由が瞬時にわかるであろう。常に前向きに、音楽は停滞することなく進んでいく有り様がまさに飛竜を表現している。この曲がブラスバンドで演奏されることで、より一層ドラゴンの直向きの姿、力強さが表現することが可能となっている。ただ壮大な力強さだけでなく、16分音符と3連符が入り混じって出てくることで、楽曲の魅力をひきたて、ビート感が強くなっている。B durから始まり、最後には長2度上がって転調しC durで終わることで召喚されたドラゴンの未来への羽ばたきを祈り続けられるのであった。

トロンボーン 3年 横山 美里

### G.リチャーズ／カントリー・シーン

ゴフ・リチャーズ(1944-2011)はイギリスのコーンウォールに生まれる。ボドミングラマースクールで教育を受け、王立音楽大学とレディング大学を卒業。1976年～1989年、サルフォート工科大学にて編曲を教えた。また、チェサム・ビックバンドの音楽監督を長年務める。1989年にサルフォード大学ジャズオーケストラをBBCビッグバンドオブザイヤーのタイトルに先導した功績が認められ、1990年に同大学より博士号を授与される。ブラスバンドの編曲、作曲家や指揮者としても活躍し、作曲では「トレイルブレイズ」「バーナード・キャッスル」「ワン・デイ(コルネットソロ)」などが知られている。1984年には「コンチネンタル・カプリス」でヨーロッパ・ブロードキャスティング・ユニオン・アワードを受賞している。

この曲は1985年に書かれた彼のオリジナル作品の一つであり、演奏者と観客の両者がそれぞれの感情的な音楽の賛辞の提供を主とした作品である。朗らかな英国サウンドから始まり、小さな自然に囲まれたイギリスの情景は豊かな色彩感と心情として冷酷な世界観が感じられる。ソロコルネットとユーフォニアムのそれぞれのカデンツソロはその情景の走馬灯として駆け巡る音楽性、優しいメロディックなフレーズは国の情景(Country Scene)として模写され、異次元の時間と空間を感受させる。

ユーフォニアム 1年 増野 玲音

# PROGRAMME NOTES

## P.スパーク／ホーコン善王の伝説

この曲は2008年、ノルウェーのフレイとクリスチャンスンという2つの自治体の合併を祝い、フレイ・ホルナムシック・バンドから委託された。934年～961年にノルウェーの王として活躍したホーコン1世の生涯における大きな功績を題材とし、4つの場面で構成される作品である。彼は幼少期、父の政権時に結ばれた和平条約により、イングランド王による養育を受けており、キリスト教も教育されていた。

曲冒頭は「未来の王/THE FUTURE KING」と題されており、英才教育を受けるホーコン1世の高貴さを漂わせる。その直後f mollに転調し、重々しく力強いメロディが聞こえてくる。父の死の知らせである。イングランド王は、ホーコンをノルウェーの新王になると宣言している異母兄弟のエイリーク1世を討つ遠征に行かせる為、彼に船と兵士を与える。付点のリズムと8音符で構成される「フレイへの讚美歌」のメロディが聞こえてくる。ホーコン1世は王となった。

場面は「トロンハイムへの旅/THE JOIRNEY TO TRONDHEIM」に展開。ホーコン善王はノルウェーに上陸し、前王である父が市民らに要求していた課税の権利を放棄することを宣言し、彼らの支持を得た。曲調は明るく勇ましく、戦いへの熱意も高まっていく。途中、転調がくりかえされる箇所では、まるでホーコン善王が次々と多くの偉業を成し遂げていくようである。その後、トロンボーン群から始まる荘厳な場面へと展開する。

「宣教王/THE MISSIONARY KING」ホーコン善王が自身の学んだキリスト教を、ノルウェーに布教する場面である。ユーフォニアム、ホルネットのソロが美しく奏でられる。この場面のメロディは、高圧的に布教しないホーコン善王の穏やかであろう人柄と、キリスト教の神聖さを表現しているように感じられる。しかし、善王による布教は思うようにいかず、数々の偉業を成した彼でもノルウェーにキリスト教を布教することは出来なかった。

「ラスタルカルフの戦い/THE BATTLE OF RASTARKLV」善王が幼少時に、ノルウェーの新王になると宣言した異母兄弟のエイリーク家との戦いである。ホーコン善王の生涯で最大の勝利だったと伝えられる。兵士の数は敵軍に負けていたが、善王は少ない自軍の兵士を、低い尾根(山陵)沿って10本の軍旗とともに配置した。この10本の軍旗が、この場面中に鳴る10回の力強い和音で表現されているのである！まず、最初の3回軍旗を投げ攻撃した後、勇ましいファンファーレが鳴り響く。次に2回、ファンファーレに続き5回の攻撃。兵士たちの雄叫びが場面の興奮を昂らせる。その後、絶え間なく連符が鳴り響き、力強いリズムが刻まれ、善王軍の止まらない勢いの攻撃でエンディングへと向かう。

ホルネット 2年 桃井 智穂

## PROGRAMME NOTES

### J.カーナウ／ファンファーレ・アンド・フローリッシュ

ジェームズ・カーナウ(b.1943年)はアメリカミシガン州出身の作曲家、編曲家である。1966年にウェイン州立大学を卒業、1970年にミシガン州立大学にて音楽修士取得。両大学でユーフォニアムと指揮法を学び、卒業後は大学の教員、音楽科助教授などを経てフリーの作曲家になる。これまでに吹奏楽、ブラスバンド、オーケストラ、アンサンブルなど200曲以上の作品を手掛けている。作曲家自身ユーフォニアムを学んでいたため、ユーフォニアムとバンドのための作品も多くある。

この曲は1991年にロッテルダムで行われた全欧州ブラスバンド・チャンピオンシップの委嘱で作曲され、ブラックダイク・ミルズ・バンド(現:ブラックダイク・バンド)のガラコンサートで初演された。華やかなファンファーレで始まり、このファンファーレが曲中でモチーフとして何度も登場する。曲の後半に一度短調に転調し、最後のモチーフに向けて再び長調に戻ることで、より曲全体が明るく煌びやかな曲に聴こえる。

パーカッション 2年 椎名 萌

### P.スパーク／カンティレーナ(陽はまた昇る)

10年前に日本では東日本大震災という歴史的な大震災が起きた。当時、世界各国にも震災の映像がリアルに流された。英国では日本の事を『陽の出る国』と言っていた為、英国の音楽関係者は日本が津波により沈没してしまった、陽が沈んでしまったと考え心配した。その時、フィリップ・スパークは今回演奏する「カンティレーナ」を東日本大震災の復興支援の為に吹奏楽版へ編曲、曲名を「陽はまた昇る」とした。その演奏権、作曲権、著作権は全て日本に寄付する事とした。

元のブラスバンド版は2011年4月にノルウェーで開催されたグレンランド国際ブラSSFスティバルのために委嘱された新作讃美歌であり、コンテストの課題曲である。曲名でもある「カンティレーナ(Cantilena)」とは音楽用語としても使われており、ルネサンス時代には歌謡的な旋律を上声部に浮かべた多声歌曲のスタイルを意味しており、今日では主として抒情的歌謡的な器楽旋律のことを指している。題名のインスピレーションはノルウェーの劇作家であるヘンリック・イブセン(1828-1906)のデビュー作である「カティレーナ」からきており、『子守唄』を意味している為この曲に最適であったとスパークは述べている。

トロンボーン 3年 長坪 海斗

# PROGRAMME NOTES

## P.グレイアム／シャイン・アズ・ザ・ライト

この曲はピーター・グレイアムがニューヨークに住んでいた1996年に、アメリカで開催される音楽キャンプ、スター・レイク・ミュージック・キャンプにゲスト指揮者として招かれ、その救世軍ブラスバンドの為に作曲した曲である。また2001年には作曲家自身による編曲で吹奏楽版も出版され、日本でも多くの人気を獲ている。曲は切れ間なく最後まで続いているが、主に3つの楽章で構成されている。楽章はそれぞれ救世軍教会の賛美歌から引用されている。

**1楽章 It's a Great Day**／別名「Walking in the Light of God」ともされているが、歌詞は全く同じで、ヨハネの手紙の1章7節から取ったものが歌詞となっている。

**2楽章 Candle of the Lord**／救世軍の牧師であり作曲家のジョイ・ウェブが書いた合唱賛美歌である。この曲ではこのメロディーがコルネットソロによって演奏される。

**3楽章 The Light Has Come**／救世軍の引退士官であむた作曲家のチク・ユウが書いた賛美歌で、イザヤ書9章6-7節からとった歌詞となっている。

全体を通して、「暗闇から生まれた小さな光が集まり、やがて大きな光(神)になっていく」という、テーマに基づいている。

テナーホーン 2年 池谷 彰恩



# CONDUCTOR

## 山本 武雄 Takeo Yamamoto



東京藝術大学音楽学部器楽科(トランペット専攻)卒業後、同大学管弦楽研究部のトランペット奏者として務める。1987年～1988年、文部省在外研究員として、英国及びヨーロッパ各国にて“金管合奏法の指導”研究のため渡欧。英国ナショナルブラスバンド協会から功労賞を授与され、英国ブラスバンド協会会員、指導者資格を与えられる。1972年、我が国初のブリティッシュスタイルの金管バンド「東京ブラスソサエティ」を創立し、ブラスバンドの研究と普及、発展に努めている。1998年、日本吹奏楽アカデミー賞を受賞。2019年、英国(ブリティッシュ・バンズマン)より、日本でブラスバンドの文化を発展させた業績により、Herbert Whiteley 賞を受賞。日本管打・吹奏楽学会、日本吹奏楽指導者協会、“21世紀の吹奏楽”実行委員会等において吹奏楽の指導、客演指揮、審査員を務める。日本ブラスバンド指導者協会理事長。2006年より洗足学園音楽大学教授・ブリティッシュブラス・アドバイザー、2012年より名誉教授・吹奏楽特別参与。

## 福田 昌範 Masanori Fukuda



広島県三原市出身。玉川大学文学部芸術学科音楽専攻並びに同大学専攻科芸術専攻をともに首席で修了(ユーフォニアム)。2003年洗足学園音楽大学附属指揮研究所修了(指揮)。2020年東京学芸大学大学院教育学研究科修了(作曲)。第3回日本管打楽器コンクール入選、第6回同コンクール第3位入賞(ユーフォニアム)。第58回、第60回全日本吹奏楽コンクールにて指揮者賞受賞(指揮)。第27回TIAA全日本作曲家コンクール入賞(審査員賞)、第5回K作曲コンクール第1位、第2回シンガポール国際作曲コンテスト、第31回朝日作曲賞ファイナリスト(作曲)。教育者として、公立中学校、公立高等学校の教諭を経て、現在は、洗足学園音楽大学などで、後進の指導にあたっている。ユーフォニアムを三浦徹、指揮をF.フェネル、汐澤安彦、河地良智、秋山和慶、D.ポストック、作曲を谷本智希、藤田玄播、伊藤康英、山内雅弘、吹奏楽指導を八田泰一、各氏に師事。

# 洗足学園音楽大学ブリティッシュブラス



1979年に日本国内の音楽大学で初めて結成された。本格的なブリティッシュスタイルの演奏や研究に取り組むため2006年、日本でのブラスバンドのパイオニア、山本武雄氏(現、名誉教授・吹奏楽特別参与)を迎え、2008年8月に英国への演奏旅行を行い、「インターナショナル・ブラスバンド・サマースクール2008」(於:ウェールズ、スウォンジー大学)への参加、「洗足学園音楽大学ブリティッシュブラスコンサート in ウェールズ」(於:カーディフ・ランダフ大聖堂)を行い、研鑽を積んだ。また、2013年度にはロバート・チャイルズ、2015年度にニコラス・チャイルズ両博士を客員教授に迎え、更なる進化を目指し、指導教員と学生が一丸となってブリティッシュサウンドを響かせるべく、指導法や作品の研究に取り組んでいる。

## STAFF

企画運営責任者	福田 昌範				
指導教員	海野 匡代	小川 佳津子	原 進	府川 雪野	古田 賢司
	班目 加奈	渡邊 功			
アカデミックコーディネーター	海野 匡代				
助手	土屋 莉帆				

洗足学園音楽大学  
ブリティッシュブラス  
公式ページ

授業風景、コンサート情報は  
こちらをチェック



Facebook



Twitter